

の地形は此の外、黒岩の東山麓及び千曲川を越えて下高井郡にも所々に見出すことが出来るが、熔岩の上を火山岩屑等で被覆し、または熔岩流の區域狭少の爲め、地形圖では多少困難である。

宮野原附近河成段丘（第三圖、圖版第八版下

圖參照）

苗場山及び松之山地形圖により宮野原附近の千曲川沿岸に於て水平曲線を注意すると、一見鍋倉山附近の熔岩台地に似た上面が極めて平坦で而も廣區域に亘り數段の階段地が見られて、

浸蝕も極めて幼年期の地形が眼に入る。下高井郡雪坪、下水内郡今泉邊から東方に分布して水平曲線を辿ると二二〇米、三〇〇米、四二〇米五〇〇米、六四〇米と五段許りの階段地を見出されるが、河成段丘で舊く河床であつた所が漸次河身の回春により低位に移つた爲め、河床の遺物を示はしたもので、現在の千曲川床は標高一八〇米を算し第六回目の河底であつて著しく深く浸蝕し沿岸甚だしき峽谷をなしてゐる事もうなづかれる。（君塚）

伊太利とくろぐ（七）

瀧川規一

〔ゼノアとコロンバス〕地中海に面して急勾配の斜面に幾多の大理石の高厦宮殿を列ねてゐるのは人口十六萬を擁する大都會はゼノアである。市の背後には樹木鬱蒼せる高地を有し海上

よりの眺望は *Genova la superba* 「誇のゼノア」の名を辱かしめず高臺の一角から海上を眺め地中海に想を馳せ出入の大船を見る時貿易港の股盛將に然る可しと思はしめる。市街は舊式都會

にあり勝ちの如く道路狭く迂餘曲折してゐる。短剣を腰にし鳥の羽を帽子に挟み淡緑の洋服を着けて三々五々群をなして此處彼處に徘徊せるものはフ黨の青年である。銃劍いかめしく屯せるは憲兵である。糸の亂れを引き締める一つの手段としてムソリニが用ひたのはこれ等の所謂「暴力手段」であつた。銀行の大きな建物と取引所との間を進むと極めて細やかな家がある。家の背後は全く蔭に蔽はれ門口丈け漸く露出して見る影もなくみすぼらしい家である。これこそ探り求めるコロンバスの家である。家の前に佇んでゐる労働者風の男に最初コロンバスの家の所在を聞いたが知らぬと云ふ。繪葉書を見せてこの家を教へよと云つたが知らぬと只答へるのみである。やがてフ黨青年が二三通りかゝつたので聞き漸くにして知り得れば、豈圖らんや労働者が凭れてゐる石柱をれ自身がコロンバスの家であつた。繪葉書の繪が餘りに立派で、實物は餘りにみすぼらしい小さな家であるが爲めに家の前に立ちながらこれと見定めることが出来

なかつたのである。

ゼノアに来て連想す可きものが三つある。一はゼノア派の舊き畫風である。一は宏大なる墓域にある幾多の彫刻である。一は前述のコロンバスの家である。コロンバスと云へば幼童もよく知るアメリカ發見者である。吾々の興味を惹くものはこの家と共に忘る可からざるコロンバスの手番である。

空前最後の一大發見をはじめて報道したコロンバスの最初の手番である。彼のその手番によれば最初スペインのバロス (Palos) を出發し發見の報知を齎らしてバロスの港に再び着するまで二百二十四日を費してゐる。

西國の南岸バロスの港を發したのは一四九二年の八月三日である。三艘の輕帆船 (Carrack) に九十人ばかりの乗組員を乗せて出發した。發見後は只一艘の船にて歸國した。バロスを去つて九日目にカナリ群島に着し、食糧品その他の準備をなす爲めに九月六日まで碇泊し、二日間は無風の爲めに滞留し漸く八日に出帆した。大

西洋を横切つて進んだが目的は彼の所謂 Cathay 即ち支那若くは印度に到るのを目的としたのである。十月十二日金曜の朝(今日の曆によれば十月二十一日)にバハマ(Bahama)群島の一を見出し上陸して西班牙國王の名をもつて諸島に命名した。十五日には Santa Maria de la Concepcion と命名した島を發見し(多分今日の Crooked Islands)翌日には Ferdinandina 島に到り十九日には Isabella 島に到つたが、コロンバスは Cipango (=Japan) 即日本の附近に居ると思つて南方に航路をとり二十八日に Cuba 島に到つて Juana と命名した。茲處に滞留して東北の沿岸を探險し十二月五日には Hayti に着し Española と命名した。この島の北岸を探險して居る間に難破した。超えて一四九三年の一月十六日には故國に向つて出發し、二月十八日にはアゾレス群島に着し三月四日には Lisbon 及び十五日にはバロスに歸還してゐる。彼がもたらした發見の報知は忽ち世間の噂となり彼の手昏は既に十五世紀に於て多くの版となつて世に出さ

れた。西語版が二種あり拉典語版が九種あり伊語版が四種あり獨乙語版が一種ある。その他西語の寫本が二種現存してゐる。その他コロンバスが西國諸侯に送つた航海日誌がある筈であるが、今日原本を發見せず只概要を書いたもののみが残存してゐる。今日 Lenox 氏文庫にある所謂コロンバスの亞米利加發見に關する最初の手昏なるものから翻譯して見る。彼が西王の大藏大臣に當てた手昏である。

「私の計畫が成功しましたので閣下にも悦んで貰へると思ひます。吾々のこの航海中に起つた出來事及び發見した事柄等を凡て閣下に知つて頂きたいためにお話することを決心しました。Cádiz (Palos のこと) を出帆して後十三日にして印度海に入り無數の住民を有する多くの島を發見し、吾々の至福なる國王の爲めに宣言する先觸役と流旗とをもつて何人の抗議にも會はず是等の島を悉く占領しました。これ等の島のうち最初の島を聖なる救主の名を與へました。(この島は San Salvador 中の一島なら

んと想像される)これは今日まで救主の援助によつてこの島をはじめ他の諸島に達することが出来たからであります。この島は印度人等は *Fr anahany* と呼んでゐます。私はまた他の諸島は一々新しい名を付けました。一つの島には、*Santa Maria de la Conception* の名で呼び、(今日の *Crooked Island* 又は *North Caico* ではなつかと思はれる)一つの島を *Fernandina* 他の島を *Isabella* 他の島を *Juana* と云ひ爾餘の島々をどう云ふ風に命名しました。今申しました *Juana* と云ふ島に到着するや否や西に向つて海岸に沿ひ暫く進みましたが、その島は大きくて際限が無く島であるとは信じられず *Cathay* (支那)と云ふ大陸國ではないかと思はれました。然し海岸には何等都會都市と云ふが如きものがなく只村落と粗末な百姓小屋ばかりでありました住民は吾等を見るや否や一目散に逃げ走りましたので言葉を交はすことが出来ませんでした。更に進んで都市若くは大住宅を見出さうと思ひました。吾々等は全く遠く進んで居りますが欲

伊太利とてころく

するものは何も見出しませんでした。とつたや向は北方に進んで居ると思つたので、それを避けました。陸上では冬の季節であり南方に進むことを欲してゐました。のみならず風が劇しく吹いてゐましたので、今迄の方向を轉じました他の何等の計畫も實行不可能であると思定めましたので、引き返へし以前に注意してゐた或る小灣に戻りました。其處から二人の乗組員を陸地に送りこの地に國王があるか都市があるかを見出ささうとしました。二人は三日間旅をしました。彼等は無數の國民と家屋とを見出しましたが、何れも小く政府らしきものを見出さなかつたので引きかへしました。やがてこの國は全く一つの島であることを前捕へた數人の印度人から聞き知りました。それで常に海岸線をとる三二哩を東方に進みこの島の先端に到りました。此處から東方に五四哩の距離の處に他の島を見ました。この島を *Hispana* (今日の *Hispain*)と命名してそれに航しまして、*Juana* に於けるやうに北岸に沿うて東に五六四哩を航

行しました。前述のジュアナ島と他の島々は非常に土地肥沃であるやうに思はれます。この島は非常に安全にして広い多くの港灣に取圍まれて居まして從來見ました他の島に劣らぬものであり衛生に適した大河が多く流れてゐます。また非常に高い山が數多くあります。これ等の島嶼は非常に美しく顯著な種々なる特質をもつて居り、何れも接近し得られる島であり空の星に

まで達する種々の喬木がありその樹葉は落葉することがないと思はれます。と云ふのは西班牙で五月の月に普通見られる様に青々と繁茂してゐるのを見ましたからであります。或樹木は花咲き或樹木は果實を結んで居り、他の樹木は各特異な様子をして榮えてゐます。鶯その他の諸種の鳥が自分の探險してゐました十一月の月に無數に囀つてゐました。のみならずジュアナの島には七八種の棕櫚樹があり吾が邦の棕櫚樹よりはその高さで美しさとに於て優れその他の樹木、野菜、果實も亦同様に優れてゐます。また見事な松樹があり廣大なる平野と牧場とがあり

種々なる禽鳥、種々な蜜、種々なる金屬がありますが鐵だけはありませぬ。ヒスバニアと呼ぶ島には前述の如く大きな美しい山があり廣野森林、沃野があつて植林栽培家屋建設に最適の地であります。この島に於ては港灣の便利、人類の健康に資する河川の數の多きことは之を目撃するものに非らずんば信ずることが出来ませぬ。

この島の樹木、牧野、果實はジュアナの島にあるものとは非常に異つてゐます。このヒスバニアの島には加之に異種の香料、黄金、金屬に富んで居ます。この島は勿論のこと私が見た他の凡ての諸島及び私が聞いてゐた他の諸島では住民は悉く男女共に常に裸であります。恰も人類がはじめて世界に出て來た時の有様であります。時には婦人は一枚の木葉、數葉の樹枝、若くはその目的の爲めに態と作つた綿布を用ひてゐるものがあります。これ等の人民は前にも述べました通りに鐵類は全く持つてゐませぬ。

彼等はまた武器をもつてゐませぬ。武器は全

く彼等には知られてゐません。彼等は武器を用ふる能力をもつて居ません。それは肉體の不具の爲めではありません。彼等は體格に於て整つて居ります。彼等は卑怯であり恐怖に満ちて居るからであります。

然し彼等は太陽の光に焼いた蘆で作られ兩端に乾燥した木を磨り減らして尖らした武器をもつてゐます。然かも彼等は全くこれ等の武器を操る勇氣をもちません。部下乗組員の二三人を或る村落へ送つて土人と會談ささうとしますと密集した印度人の軍隊が進軍して來ましたが乗組員の近づくのを見るや否や彼等は親は若き者を押しつけ若き者は親を押しつけ一目散に逃げました。斯く逃亡したのは危害が彼等のうちの誰かに加へられた爲めではありません。私が訪問し會談し得た者等には私がつてゐる凡ての品物衣服その他多くの物品を與へ何等の報酬を受けてゐません。彼等は天性恐怖心に満ちて臆病であります。彼等が全く恐怖心を失くし安全であると知つた時には彼等の態度は單純であり

信頼に値し所有物を自由に與へ乞ふ者には如何なる所有物も與ふることを拒まず時には物品を乞へるとして招き請求することすらあります。彼等は自己に對する愛よりも以上に他人に對する愛を示し、彼等は些細なる物を與へられても貴重なる物をもつて酬ひ、時には非常に尠き報酬をもつて満足し全く何等與へられることなくても満足してゐます。然し大皿や小皿ガラス器や鍵や靴と靴用の革紐等餘り價値なく瑣細なものを與へることは禁物であります。何となれば（不思議なことには）これ等の品物は彼等にとつては世界で見られない最美しい寶玉を得たかのように思へたのであります。一水夫が靴の革紐を一本與へたが金貨三個に等しいと思はれる金塊を交換に貰つたことがあります。非常に價値の尠き物品、殊に新鑄造の銀貨若くは金貨に對してはそれを得んが爲めに所有物の凡ゆるものを與へんと欲したのであります。例へばその代價として彼等は金の一オンス半若くは二オンス或は三四十磅の木綿を與へて呉れました。それ

は彼等が既に知り馴れてゐる品物であります。彼等の貿易品と云へば木綿及び金に對して弓、瓶、甕、壺を恰も理性無き人々の如くに交換しました。そんな交換を私は禁じました。その理由はそんな交換は正しくないからです。私は自分がつて來た美しく見て快き品物を多く彼等に與へました。交換物品の價値は問題外としました。私は彼等を自分に一層友誼的にならしめ基督の信者たらしめんと欲し吾々の王、女王、王族及び全西班牙國に對して愛心を抱かしめんことを欲し、また彼等が多く所有し彼等が多く必要とする物品を熱心に搜し集めて吾々に與へんことを欲したからであります。彼等は偶像崇拜は少しもつてゐません。凡ての物質的精神の力凡てのよい事柄は全く天にありと固く信じ、私が天界から船と水夫とをもつて降臨したと信じてゐます。彼等が恐怖心を去つた後はこの信念で私を待遇してゐます。彼等は遅鈍でも不器用でもありません。彼等は優れた鋭い理解力を持つてゐます。海を航海した經驗ある者等

は感心する程見聞した事柄を何事もよく説明します。

彼等は決して衣服を着けた人間や吾等の船舶を見たことがありません。その海に到達するや否や最初の島で數人の印度人を強制的に捕へました。それは彼等が吾等から學びまた彼等が知れる事柄を吾々に語らしめる爲でありました。その計畫が成功しまして間もなく時には手眞似身振りにより時には言葉によつて吾々は彼等を了解し彼等は吾々を了解しました。それが非常に吾々に利益となりました。彼等は今は私の許に來て長い間今日まで共に住み今日も共に暮してゐるのであります。私が天國から降つて來たものと常に信じてゐます。彼等は吾々が島のどこへ上陸しようとも大聲擧げて他の土人等に觸れ廻つて「來たれ〜然らば天國の人々を見るであらう」と呼はつたのであります。これを聞くや土人等は婦女子も男子も、小供も大人も若さも老いたるも少し以前起してゐた恐怖心を打ち棄て、熱心に吾々を見物に來て道路に溢れ

新著紹介

○海圖の話

國生行孝著 古今書院發行
定價一圓八十錢

本書は海軍中佐國生氏の近著である。海圖の構成海圖原版の作製、海圖の改訂といふ三大章と總記より成り立し、第六百二十六頁の手頃な本であつて、附圖としてはコロンブスの使用した海圖、一六五〇年頃の古い海圖など珍らしく、その説明は製圖法に及んでメルカトルプロレクションの原理や多圓錐投影圖法などの説明が極めてあつさりわかりやすく書かれてゐると同時に海圖の出來上る順序が懇切に示めされてゐる、海軍の人々にしてみればナンゴこれ位の簡單なものがといふかもしれないけれども、一般の常識を求める人に對してはこれ十分である、海圖の尺度、轉輪羅針儀、燈臺など海國の少青年に知らしたい事實も多くつけてある、予は喜んでこの低廉な書籍を江湖に推奨したい。(藤川)

○自然單元世界地誌

ディアーヌウエイン著
金尾宗平抄譯 古今書院發行 定價二圓五十錢

本書は福岡師範の金尾氏の近業である。四六版三百四十頁餘の小さい世界地理書である、予は今原著を座右に持たないから、本書が忠實に原著の趣を表現してゐるか否やを知らないが、支那人の生活といふ一節には、支那人は下手な算術家である、だからその測定法と貨幣制度とは、しつかりとして

る程の群衆となり或者は食物を持參し或者は飲物を携へ非常な好意と愛とをもつて集つて來ました。どの島にも一本の丸太から成るカノー舟があります。舟は狭いものでありまして形と長さにとつて吾々の艚ぎ舟に似てゐますが運行はこれよりも一層早くあります。彼等は只櫂を用ひて舟の方向を定めます。或舟は大きくあり或舟は小さく或舟は中形であります。大きな舟には十八の横木があります。この舟にて彼等の間に貿易は無數であります。艚舟の大なるものには七八十人の艚手の居るのを見ました。これ等の諸島に於ては住民の外觀習慣言語は相異なる處無く彼等は皆互に了解してゐます。このことは吾々の最有名なる王によつて切に望まれるであらうと私が想像する目的の爲めに非常に重要なことであります。即ち基督の神聖なる宗教に彼等を改宗せしめることであります。基督敎を信ずることに關しては彼等は敵意をもたず容易に信する傾向をもつてゐます。(手紙續)